

第1回あわらし道の駅基本計画策定委員会出席者名簿

あわらし道の駅基本計画策定委員

	氏名	所属及び役職名
委員	川本 義海	福井大学学術研究院工学系部門 教授
委員	山田 重喜	あわらし市議会議長
委員	吉田 太一	あわらし市議会副議長
委員	田井野章浩	一般財団法人本願寺文化興隆財団 外事部 部長
委員	末富 攻	吉崎地区区長会 会長（吉崎2） 一般社団法人蓮如の里吉崎 理事長
委員	古橋 照夫	北潟地区区長会 会長（北潟西）
委員	杉田 光良	細呂木地区区長会 会長（蓮ヶ浦）
委員	酒井 敏雄	NPO法人細呂木地区創成会 副会長
委員	赤尾 政治	あわらし市商工会 会長
委員	前田 健二	あわらし市観光協会 会長
委員	深町 治男	福井県農業協同組合坂井基幹支店坂井園芸センターきららの丘担当課長
委員	中林 敬雄	坂井北部丘陵地営農推進協議会 事務局長
委員	田端 和英	北潟漁業協同組合 組合長
委員	宮本久仁彦	国土交通省 近畿整備局 福井河川国道事務所 事務所長
委員	平林 透	福井県 土木部 道路保全課長
委員	神門 博文	福井県 土木部 三国土木事務所長
委員	獅子原朋広	福井県 交流文化部 副部長（観光誘客課長取扱）
委員	吉澤 真	福井県 農林水産部 流通販売課長
委員	城戸橋政雄	あわらし市副市長
委員	小嶋 範久	あわらし市 創造戦略部 部長
委員	永井 宏昌	あわらし市 土木部 部長
委員	武田 正彦	あわらし市 経済産業部 部長

事務局

1	江川 嘉康	あわら市 創造戦略部 政策広報課長	【事務局長】
2	藤田 由紀	あわら市 創造戦略部 政策広報課長補佐	【事務局次長】
3	渡邊 崇久	あわら市 創造戦略部 政策広報課主事	
4	伊藤 裕一	あわら市 土木部 理事	
5	龍田 雅人	あわら市 土木部 建設課長	
6	高橋 啓介	あわら市 土木部 建設課長補佐	
7	伊藤 隆信	あわら市 経済産業部 理事	
8	堀江 紀幸	あわら市 経済産業部 観光振興課長	
9	赤神 貴幸	あわら市 経済産業部 観光振興課長補佐	

オブザーバー

1	佐々木康男	あわら市長	
2	阿部 浩志	(株)阿部総合計画事務所	
3	上野 良一	福井県 地域戦略部 市町協働課 総括主任	
4	田島 大毅	福井県 地域戦略部 市町協働課 主事	
5	森川 大輔	(株)国土開発センター福井支店	
6	辰野 肇	(株)国土開発センター福井支店	
7	島木 正博	(株)国土開発センター福井支店	
8	森田 隆夫	(株)国土開発センター福井支店	

第1回あわらし道の駅基本計画策定委員会

日時 令和2年10月12日(月)

午後3時30分から

場所 あわらし役所 正庁

次 第

1 市長あいさつ

2 あわらし道の駅基本計画策定委員会委員・事務局員の紹介

3 協議事項

(1) 委員長及び副委員長の選任について

(2) 道の駅「蓮如の里あわら(仮称)」整備構想について

【構想説明】

- 整備構想(案)について……………「資料1」「資料2」

【協議】

項目

- 目指すべき方向性とコンセプト等について(目次1-3)
- 整備計画地や導入機能及び施設等について(目次4-6)
- ゾーニング計画、施設配置計画等について(目次7-9)
- 管理運営や整備の基本方針等について(目次10-11)
- その他

4 その他

- ・今後のスケジュールについて

あわらし道の駅基本計画策定委員名簿

(敬称略)

職名	氏名	備考
委員	川本 義海	福井大学学術研究院工学系部門教授
委員	山田 重喜	あわらし市議会議長
委員	吉田 太一	あわらし市議会副議長
委員	田井野章浩	(一財) 本願寺文化興隆財団外事部部长
委員	末富 攻	吉崎地区区長会会長・(一社) 蓮如の里吉崎理事長
委員	古橋 照夫	北潟地区区長会会長
委員	杉田 光良	細呂木地区区長会会長
委員	酒井 敏雄	(NPO法人) 細呂木地区創成会副会長
委員	赤尾 政治	あわらし市商工会会長
委員	前田 健二	あわらし市観光協会会長
委員	深町 治男	J A福井県坂井基幹支店 坂井園芸センターきららの丘担当課長
委員	中林 敬雄	坂井北部丘陵地営農推進協議会事務局長
委員	田端 和英	北潟漁業協同組合組合長
委員	宮本久仁彦	国土交通省近畿整備局 福井河川国道事務所事務所長
委員	平林 透	福井県土木部 道路保全課長
委員	神門 博文	福井県土木部 三国土木事務所長
委員	獅子原朋広	福井県交流文化部 副部長
委員	吉澤 真	福井県農林水産部 流通販売課長
委員	城戸橋政雄	あわらし市副市長
委員	小嶋 範久	あわらし市創造戦略部部长
委員	永井 宏昌	あわらし市土木部部长
委員	武田 正彦	あわらし市経済産業部部长

あわらし道の駅基本計画策定委員会要綱

(令和2年9月30日伺い定め)

(設置)

第1条 この要綱は、あわらし市における道の駅整備に関し広く市民の意見を求めるため、あわらし道の駅基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) あわらし道の駅基本計画（以下「基本計画」という。）に係る調査研究
- (2) 基本計画の策定
- (3) 前2号に掲げるもののほか、基本計画の策定に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 各種団体代表者等
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) その他、市長が必要と認める者

3 委員の任期は、基本計画が策定されるまでとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、創造戦略部政策広報課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

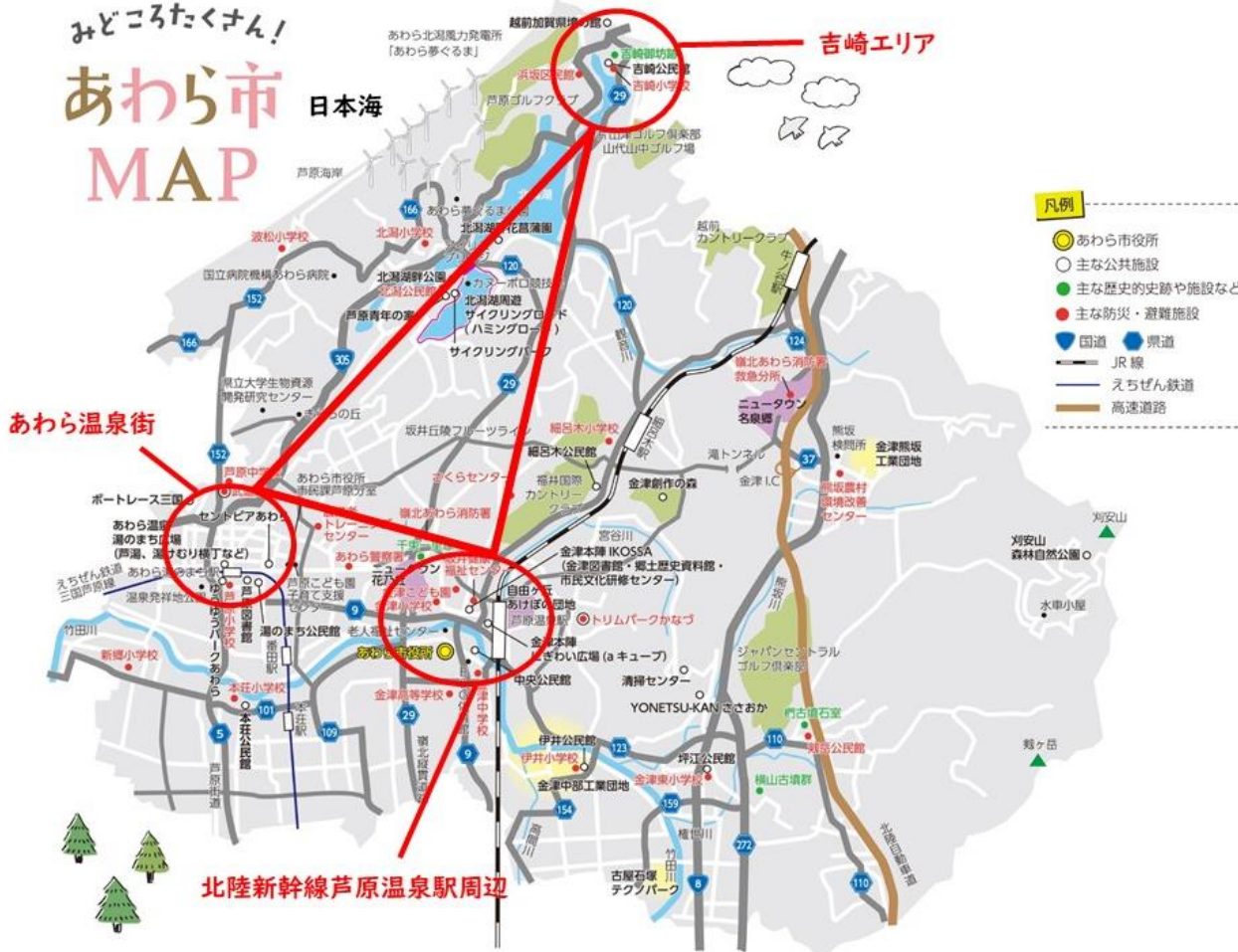
道の駅「蓮如の里あわら（仮称）」整備構想（案）概要

1 道の駅整備の目的と意義

「道の駅」は、令和2年7月1日現在、全国で1,180駅が登録されており、県内には16駅設置されていますが、あわら市には未だ道の駅が整備されていません。

このため、国道305号が通る吉崎地区に、あわら市北部の地域資源やポテンシャルを最大限活かし、地域活性化の拠点として、休憩・情報交換、地域連携の機能をもった、地域とともに作る個性あるにぎわいの場として、あわら市初となる道の駅を整備することとします。

令和5年春の「北陸新幹線芦原温泉駅開業」や、それに伴う秋のdestinationキャンペーン、同年9月に芦原ゴルフクラブで開催される「日本女子オープンゴルフ選手権」など、今後、福井県や本市に注目が集まる事業やイベントが数多く企画されています。こうした機会を確実に捉え、「道の駅」と「北陸新幹線芦原温泉駅」、「あわら温泉街」の3地点をネットワーク化し、点から線、線から面として、市内全域の周遊性を高め、あわら市全域の活性化を図りたいと考えています。



2 道の駅の目指すべき方向性とコンセプト

1 道の駅の目指すべき方向性

従来の「休憩」が利用目的となる道の駅ではなく、道の駅自体や地域資源を楽しむなど、「目的地」となる道の駅を目指します。

このため、さまざまなポテンシャルを秘めた吉崎を含むあわら市北部地域の強みや特徴を最大限に生かし、地域の顔として、個性的で魅力的な道の駅とします。

- ① 単なる通過点ではなく、来訪者が楽しめる道の駅を目指す。
- ② 地域住民が集い憩う場所、住民や来訪者が利用する物販所等を整備することで、住民生活の利便性や地域の賑わいの向上を図る。
- ③ あわら市北部エリアへの人の流れを作るなど、道の駅を拠点とした地域の活性化を目指す。
- ④ 観光や市の地域の魅力に関する情報の発信拠点として、来訪者と地域を結ぶ道の駅を目指す。
- ⑤ 坂井市や加賀市等と連携し、地場産業や広域的な観光の振興につなげる。

2 道の駅のコンセプト

さんぼう

「三方よし、感幸ステーション」

住む人も来る人も地域全体も“よし”となる幸せの結節点

- 結 ぶ…福井の北の玄関口、石川の南の玄関口として、人・モノ・コト・情報が集まる結節点
- 集 う…地域住民や来訪者が集い、憩い、遊び、楽しむ賑わい拠点
- 育 む…丘陵地の農産物や地元特産品の販売、郷土料理等を提供する産業振興の拠点
- つなぐ…観光地をつなぎ、誘客拡大を図る周遊観光の拠点
- 学 ぶ…蓮如の里をはじめ北部エリアの歴史・文化や自然・環境を楽しく学べる拠点
- 安らぎ…アウトドアスポーツ（ウォーキング、ジョギング、サイクリング）等で心身をリフレッシュし、健康増進を図る拠点

3 名称

道の駅の名称については、整備予定地の歴史・文化、知名度、さらには人々の親近感などを勘案し、次のとおりとします。

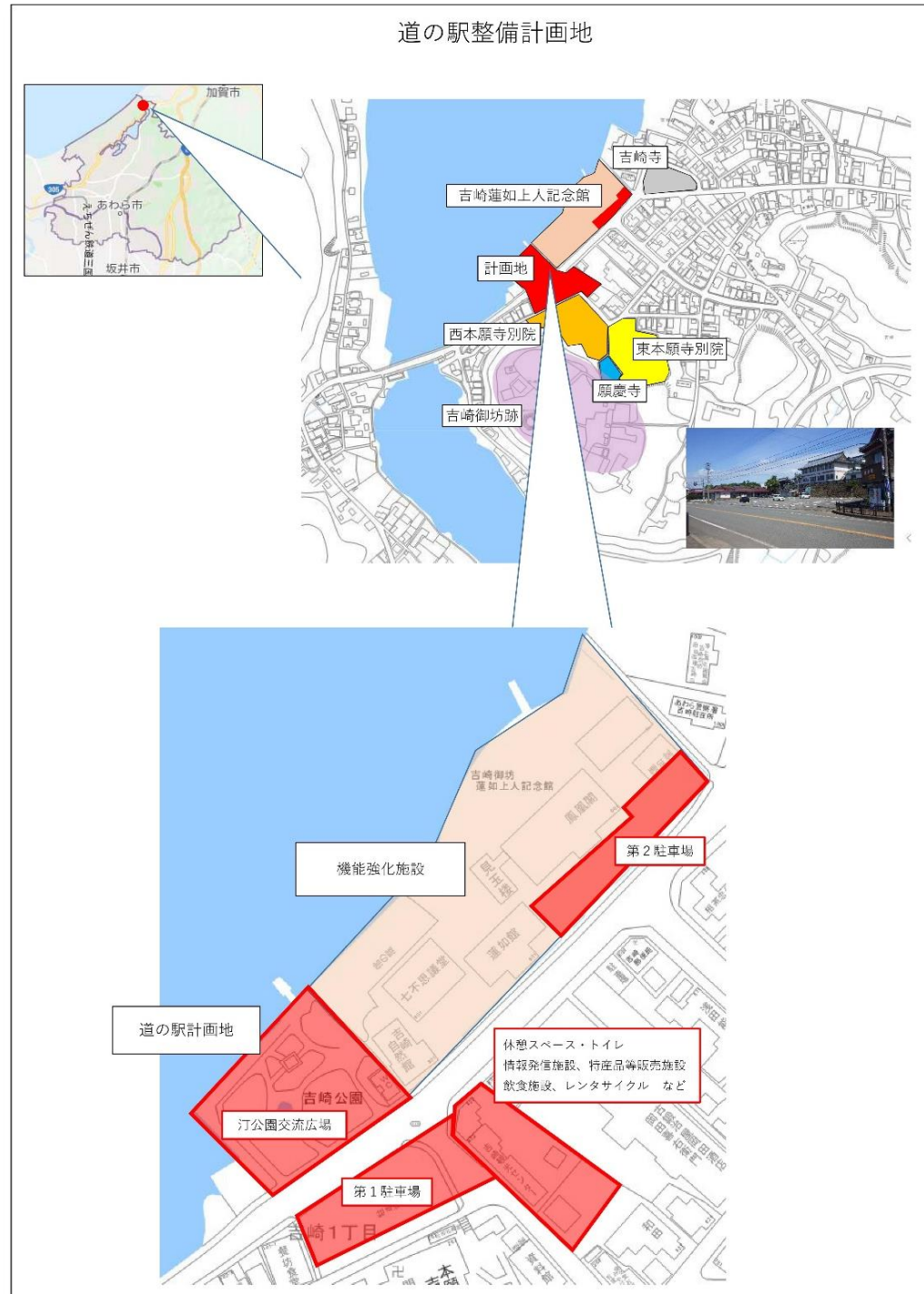
道の駅「蓮如の里あわら」

3 道の駅整備の計画地等

1 道の駅整備の計画地

吉崎御坊の県営駐車場や都市公園である「吉崎汀公園」、民間施設の「吉崎観光センター」などの既存施設のエリアと、隣接する「吉崎御坊蓮如上人記念館」のエリアを機能強化施設とし、両エリアを道の駅として機能的一体的に整備します。

※ 機能強化施設については、国土交通省と協議中

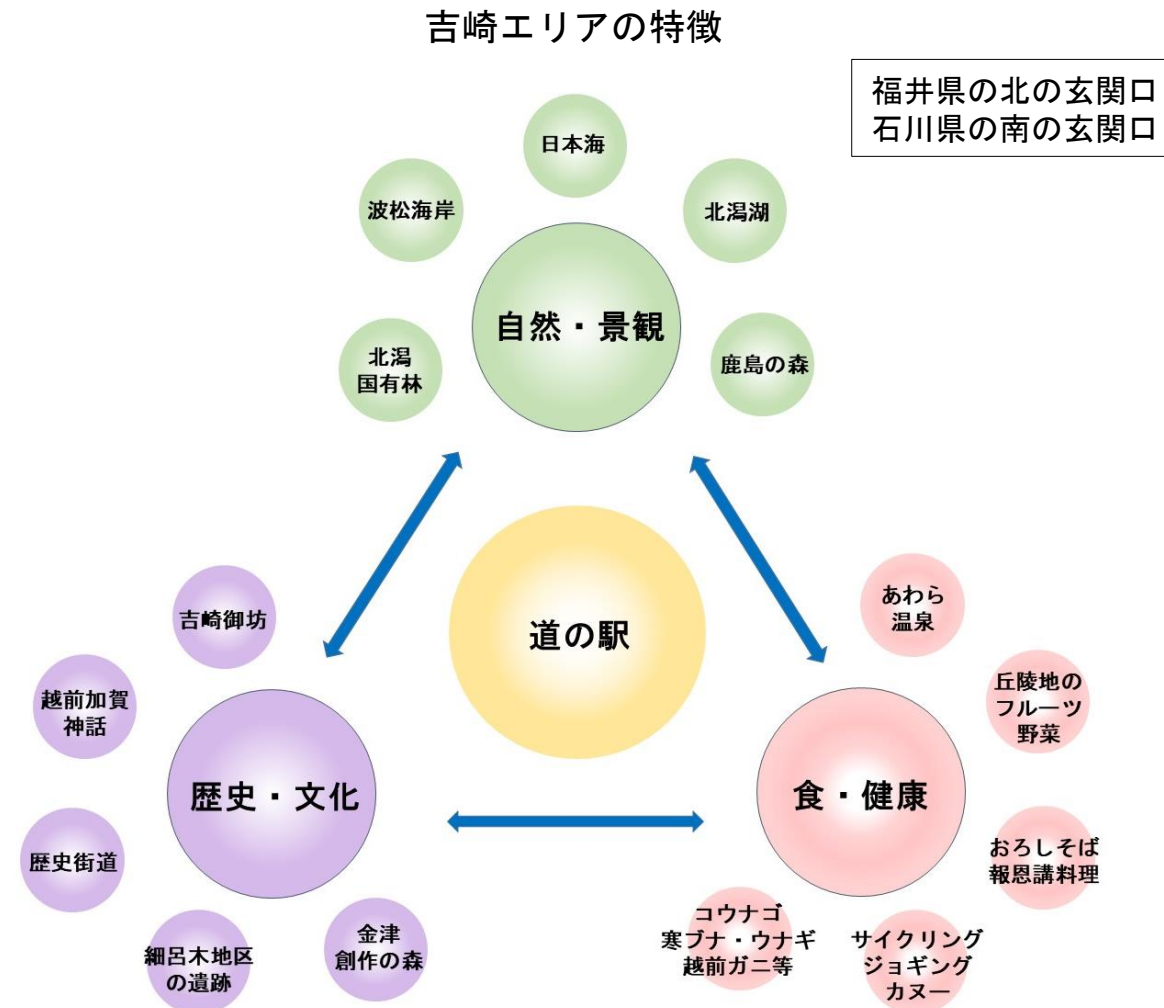


2 周辺関連施設と道の駅整備エリアの特徴

(1) 周辺関連施設

- ① 吉崎御坊跡及び寺院
 - 吉崎は、浄土真宗中興の祖・蓮如が北陸での布教の中心拠点に選んだ場所で、現在でも付近一帯は「蓮如の里」と呼称されています。
 - 浄土真宗本願寺派の別院（吉崎西別院）、真宗大谷派の別院（吉崎東別院）、願慶寺、吉崎寺があります。
- ② 吉崎御坊蓮如上人記念館（一般財団法人本願寺文化興隆財団）
 - 平成10年に一般財団法人本願寺文化興隆財団によって設立されました。蓮如上人の御名号や御文（御文章）などの貴重な文化財と史料を展示する「蓮如館」、総檜寝殿造の「鳳凰閣」、「七不思議堂（国登録有形文化財）」、「信の庭」、桃山様式の高廊下風庭見台「見玉楼」等からなり、蓮如上人の生涯と教え、吉崎の歴史や文化を深く学ぶことができます。
- ③ 越前加賀県境の館
 - あわら市と石川県加賀市の県境を跨いで建っている館で、周辺地域の歴史に関する展示を楽しむことができます。

(2) 道の駅整備エリアの特徴



4 道の駅導入機能及び施設等

1 休憩機能

(1) 駐車場

安全確保のため、小型車、大型車、ハートフル対応型車、二輪車の駐車スペースを分離して整備します。

第1 駐車場

小型駐車場25台、大型駐車場5台
ハートフル駐車場2台、二輪駐車場10台
バス停留所1カ所

第2 駐車場（鳳凰閣前駐車場）

小型駐車場30台、大型駐車場5台

(2) トイレ

- 明るく清潔な24時間利用のトイレを整備します。
- オストメイト、授乳スペース、幼児・身体障害者用を備えた多機能トイレを整備します。

(3) 休憩スペース

- 休憩しながら道路情報等を確認することができる休憩所を整備します。

(4) 関連施設

- 駐輪場やサイクルラックを設置します。
- 更衣室やシャワールームなど、ドライバーだけでなく、サイクリングロード等の利用者がいつでも休憩できる環境を整備します。

2 情報提供機能

(1) 情報発信施設

- 道路利用者が必要とする道路や交通情報、天気情報、冬の雪道情報、災害情報等の情報をリアルタイムに提供する施設を整備します。
- 道路情報提供施設として、掲示板、道路情報モニター、Wi-Fi機能等を整備します。

3 地域振興機能

(1) 汀公園交流広場

- 吉崎汀公園を、風光明媚な湖畔の風景で疲れを癒したり、地域住民が交流イベントなどを行うことができる広場として活用します。

(2) 特産品等販売施設

坂井市や加賀市と連携し「吉崎楽市楽座」として整備します。

① 農産物直売所

- 坂井北部丘陵地等で収穫された新鮮な農産物の良さや安全性を発信するとともに、生産振興を図るため、ファーマーズマーケットを整備します。

② 土産物販売所

- 市内外の選りすぐった特産品（菓子類・酒類・伝統工芸品等）等販売する施設を整備します。
- 金津創作の森と連携し、入居作家等の作品を展示販売します。

(3) 飲食施設

① 軽飲食販売所

- 手軽に利用できるフードコートを整備します。
- 吉崎ならではの報恩講料理のほか、地域特産品を生かした新たなメニューを開発します。

4 周遊観光促進機能

(1) 観光案内施設

① 観光情報発信コーナー

- 観光案内やイベント情報など各種パンフレット等を提供し、市内をはじめ嶺北各地や加賀市等の情報を発信する観光案内コーナーを整備します。
- 市内外の観光地を映像で紹介するデジタルサイネージを整備します。

② まちあるきツアー案内コーナー

- 「一般社団法人 蓮如の里吉崎」が、御山や寺院巡り、北潟湖水上散策、弁天島を中心とした自然散策等を体験メニュー化したまちあるきイベントを開催します。
- 「吉崎ガイドクラブ」が、蓮如の里の歴史・文化、食などの魅力を紹介します。

(2) シャトルバス等停留所

- あわら北部周遊バス「あわらぐるっとバス」と加賀周遊バス「キャン・バス」の停留所を同じ場所とし、利用者の利便性の向上と周辺の観光地間の周遊性を高めます。

(3) レンタサイクル

- 道の駅周辺等の観光スポットを楽しんでもらうため、レンタル自転車を配置します。

5 機能強化施設

(1) 吉崎御坊蓮如上人記念館（一般財団法人本願寺文化興隆財団）

① 鳳凰閣

- メロン、とみつ金時、越のルビーなど特産フルーツや野菜、北潟湖や日本海産物などを用い、「蓮如レガシー」のストーリーを付加した飲食物、土産物を首都圏著名料理人（店舗）プロデュースで開発します。これを市内外に広く発信し、女性やカップル、県外からの来訪者に楽しんでもらいます。

② 蓮如館

- 蓮如上人の資料や、漫画会の巨匠・永井豪氏、里中満智子氏等が描いた「蓮如さんかるた」の絵札の原画を展示します。
- 市民を対象とした「蓮如さんかるた大会」等のイベントを開催します。

- ③ 信の庭
 - 北潟湖や鹿島の森、日本海を望みながら美しい庭園を散策することができます。
 - 吉崎汀公園と結ぶことで、湖岸散策路としての回遊性を高めます。
- ④ 七不思議堂
 - 明治14年に建てられた貴重な古民家として、平成24年に国の有形文化財（建造物）に登録されました。
 - 建物内には、蓮如上人にまつわる吉崎の民話「吉崎七不思議」が展示されています。
- ⑤ 自然館
 - 北潟湖周辺の地学、自然や動植物を紹介し、児童への環境教育を推進します。

5 整備予定地・ゾーニング計画

1 整備予定地の現状

計画地は、次の航空写真のとおり、国道305号の両側に位置します。北側には越前加賀県境の館、南側は吉崎御山、北西部には北潟湖が広がっています。

設置位置周辺の現況把握

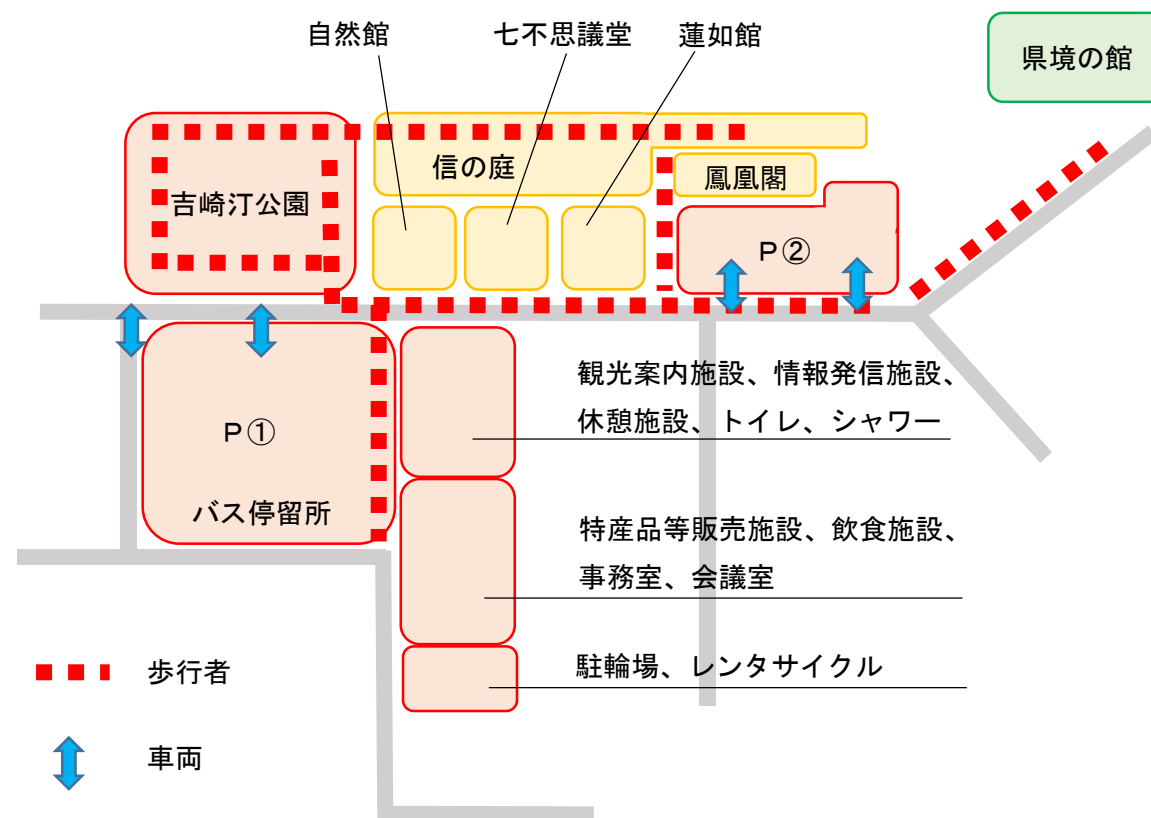


2 ゾーニング計画

道の駅及び吉崎汀公園、蓮如上人記念館（機能強化施設）への車両及び歩行者の動線を考慮し、ゾーニングを計画します。

動線の考え方

対象		動線の考え方
車両動線	施設外	・国道305号から直接アクセスする。
	施設内	・小型車、大型車が交差しないような車両動線を計画する
歩行者動線		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場内から各施設へ安全に出入りできるような歩行空間を明確にする ・周辺地域住民等、歩行者でも利用しやすいように、国道305号から歩いてアクセスできるようにする。 ・地域振興施設予定地西側の既存市道は、計画地西側に振り替え、道の駅利用者の安全を確保する。



6 施設配置計画

◇施設配置の基本的な考え方及びゾーニング計画、動線計画を踏まえた施設配置計画図

※あわら市道の駅基本計画策定委員会で詳細を検討

7 空間計画・意匠計画

道の駅の空間及び意匠については、この地域の持つ歴史や文化を感じながら、北潟湖や鹿島の森などの周辺の自然と環境に調和する施設整備を基本とします。

また、地域産の素材を使用し、来る人を癒し、くつろぐことができ、また周辺観光の拠点となるような空間・意匠計画とします。

- ① 自然環境を取り込んだ空間・意匠
- ② 移動しやすく楽しめる空間・意匠
- ③ 地域住民が集える場としての空間・意匠
- ④ 可変性のある空間計画
- ⑤ 冬季環境に配慮した空間計画

8 管理運営の基本方針

1 管理運営の基本方針

道の駅では、道路利用者の利便性向上と、地域の活性化につながる管理運営に取り組みます。利用者の満足度を得るために、サービスの質の向上や、美観や清潔さを維持します。さらに、「ここにしかない」道の駅とするための地域の独自性や、地域ならではの商品や空間づくりにも取り組みます。

こうした背景を踏まえ、誰もが利用しやすい場にするとともに、地域内外の交流・連携を図り、「おもてなし」を重視した管理運営を推進します。

- ① 誰もが立寄りたくなる「おもてなしの道の駅」
- ② 地域を周遊するきっかけの「まちの顔・案内人」
- ③ 地域の人が使えやすく、やりたいことができる「地域のための道の駅」
- ④ 周辺地区だけでなく、市全体の人とまちを元気にする「地域に還元する道の駅」

2 管理運営方針

公共施設の管理運営手法は、市が直接管理する方法（公設公営）、指定管理者により管理する方法（公設民営）、施設の管理から運営まで民間事業者が行い管理する方法（民設民営）があります。最善の管理運営手法を検討します。

9 整備の基本方針

1 道路管理者とあわら市との役割分担

本事業は、道路管理者とあわら市が共同で整備する「一体型」の道の駅として、整備を進める管理・運営方針を実現できる形態を、今後決定していきます。

導入施設		想定される整備主体		
		道路管理者	あわら市	本願寺文化興隆財団
休憩機能	駐車場	○	△	
	トイレ	○	△	
情報発信機能	休憩スペース・情報発信施設	○	△	
地域振興機能	特産物等販売施設		○	
	飲食施設		○	
	観光案内施設		○	
観光周遊促進機能	シャトルバス等停留所		○	
	レンタサイクル		○	
	更衣室・シャワールーム		○	
機能強化施設	鳳凰閣等			○
	遊歩道		△	○

2 概算事業費

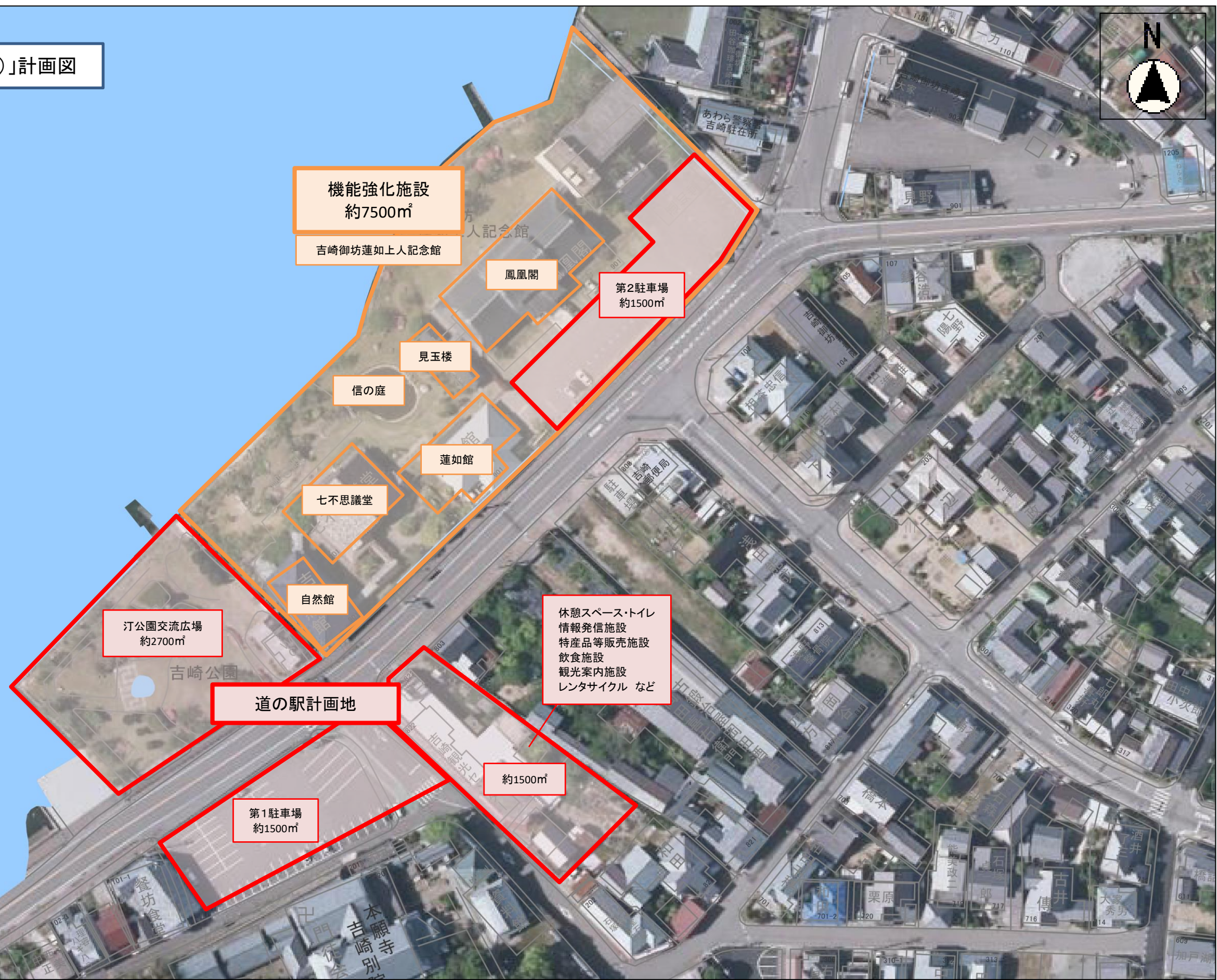
道の駅整備における設計・建設等の概算事業費は、未定です。なお、財源については、積極的に国や県の支援メニューを活用します。

10 スケジュール

令和5年4月中旬、蓮如忌前のオープンを目指します。

		道の駅「蓮如の里あわら（仮称）」整備スケジュール											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	基本構想策定庁内プロジェクトチーム												
	基本計画策定委員会												
	基本計画策定業務												
3年度	重点道の駅協議申請（国土交通省）												
	基本設計業務												
	実施設計業務												
4年度	道の駅認定申請（国土交通省）												
	敷地造成、建築物、駐車場の整備												
5年度	4月共用開始予定												

道の駅「蓮如の里あわら(仮称)」計画図



道の駅「蓮如の里あわら（仮称）」 整備構想（案）

目次

1	「道の駅」の概要	2
2	道の駅整備の目的と意義	5
3	道の駅の目指すべき方向性とコンセプト、名称	13
4	道の駅整備の計画地及び周辺関係施設等	15
5	道の駅導入機能及び施設等	19
6	近隣施設等	24
7	ゾーニング計画	28
8	施設配置計画	30
9	空間計画・意匠計画	31
10	管理運営の基本方針	32
11	整備の基本方針	34

1

「道の駅」の概要

1 道の駅の概要

「道の駅」は、令和2年7月1日現在1,180駅登録されています。そのうちあわら市が位置する近畿局では149箇所あり、福井県内には16箇所設置されています。

- ・国土交通省「道の駅」制度の概要は以下のとおりです。

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することができます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の三つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。

国土交通省道路局ホームページ抜粋

近年では、地域活性化の拠点として「特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの」を全国モデル「道の駅」として選定し、それに続く「地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの」を重点「道の駅」として重点的に支援を行っています。

近年注目されている機能としては、東日本大震災時に評価の高まった「地域防災機能」や6次産業化を含む「地域産業振興拠点機能」や「地域のにぎわい拠点機能」などが挙げられます。

<p>全国モデル「道の駅」 (H26 選定 6 駅)</p>	<p>地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の「道の駅」を対象に、国土交通大臣が選定 ・観光、産業、福祉、防災等、地域資源の活用や地域の課題解決を図るための地域のゲートウェイや地域センターとして機能 ・設置から一定年数（10年以上）、継続的に地域に貢献
<p>特定テーマ型モデル「道の駅」 (H28 住民サービス部門 6 駅) (H29 地域交通拠点部門 7 駅)</p>	<p>特定のテーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の「道の駅」の模範となる成果をあげている「道の駅」を対象に、国土交通大臣が認定 ・「道の駅」が有する個々の「機能」が異なる点を踏まえ、模範性を高めるために、テーマ（部門）を設定 ・全国の「道の駅」からの視察及び講師の要請に対応するなど、「道の駅」の質的向上に貢献する役割
<p>重点「道の駅」 (H26 選定 35 箇所) (H27 選定 38 箇所) (H30 選定 15 箇所) (R1 選定 15 箇所)</p>	<p>地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」の整備の企画段階から、国土交通大臣が選定 ・取組の先駆性、効果、実現可能性に基づき、優れた企画を選定
<p>重点「道の駅」候補 (H26 選定 49 箇所) (H30 選定 14 箇所) (R1 選定 15 箇所)</p>	<p>地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」の整備の企画を対象に、地方整備局長等が選定 ・取組の具体化に向けた地域の意欲的な体制整備等に基づき、選定

国土交通省道路局ホームページ抜粋

2 道の駅の登録要件

一定水準以上のサービスを提供できる休憩施設を「道の駅」として登録し、広く利用者に案内することを目的に「道の駅」登録案内制度が定められています。その主な登録要件は次のとおりです。

【施設位置】

- ・休憩施設としての利用しやすさ、「道の駅」相互の機能分担の観点から、適切な位置にあること。

【施設構成】

- ・休憩目的の利用者が無料で利用できる十分な容量の駐車場と清潔なトイレを備えるとともに、それらの施設及び施設間を結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化が図られていること。
- ・利用者に多様なサービスを提供する施設であって、道路及び地域に関する情報を提供する案内所及び案内コーナーがあるもの（「案内・サービス施設」）。

【提供サービス】

- ・駐車場、トイレ、電話は、24時間利用可能であること。
- ・「案内・サービス施設」には、原則として案内員を配置し、親切な情報提供がなされること。

【設置者】

- ・案内・サービス施設の設置者は、市町村又は市町村に代わり得る公的な団体（以下「市町村等」）であること。なお、「案内・サービス施設」の管理または運営を市町村等以外が行う場合、契約等により「道の駅」としての必要なサービスが確保されるよう配置されていること。

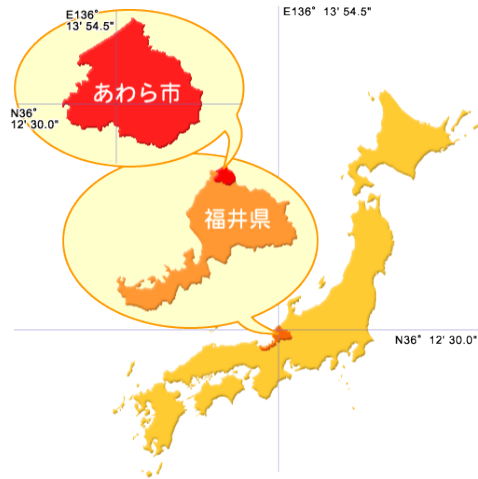
【配慮事項】

- ・女性・年少者・高齢者・障害のある人など様々な人の使いやすさに配慮されていること。
- ・施設計画は景観に十分配慮し、特に景勝地にあつては、地域の優れた景観を損なうことの内容に計画されていること。

2 道の駅整備の目的と意義

1 あわら市の立地条件

福井県あわら市は、県の最北端に位置し、西と南は福井県坂井市、そして北東は石川県加賀市に隣接し、北西は日本海に面しています。面積は116.98平方キロメートルで、地形は北部の丘陵地、南西部の平坦地、東部の山岳地帯と大きく3つに分かれています。



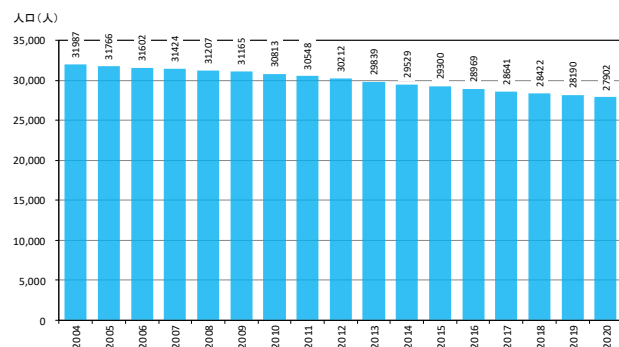
2 あわら市の状況

あわら市には、緑豊かな山々、市の中心部を流れる竹田川、県内第3位の大きさをもつ北潟湖、県内最大の園芸産地である坂井北部丘陵地、広大で稲作が盛んな田園地帯、そして越前加賀国定公園に指定されている日本海の海岸線などの豊かな自然を始め、明治期に開湯した県内随一の温泉地「あわら温泉」や、時代を超えて受け継がれてきた歴史・文化、伝統産業やそれらに育まれた生活など、国内外に誇ることができる数多くの魅力的な資源があります。

また、世界に誇れる技術を持つ製造業や、趣向をこらして観光客をおもてなしする旅館業、大地の恵みを生かして作物を育てる農業など、さまざまな産業がバランス良く集積しています。

2016年3月には第2次あわら市総合振興計画を策定し、「暮らしやすく幸せを実感できるまち」を基本理念に各種施策を進めているところです。

あわら市の人口は、旧芦原町と旧金津町が合併した2004年4月が31,987人であったものの、2020年4月は27,902人となり、約14%減少しています。この内、外国人は、508人となっています。人口減少とそれに伴う経済活動の縮小により、税収の減少や加速度的な高齢化の進行に伴う社会保障費の



増加が見込まれており、財政状況は厳しさを増すものと予想されます。

こうした中、2023（令和5）年春には北陸新幹線芦原温泉駅開業を控えており、地域内の経済を活性化するため、国内外の観光客を呼び込み外貨を獲得し、地域内で循環させていくことは、あわら市において喫緊の課題となっています。

このため、目前に控える北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、その開業効果を市内全域、さらには嶺北エリア全域に波及させるための施策を推進しています。

3 道の駅整備に関連する計画等

（1）第2次あわら市総合振興計画（2016（平成28）年3月策定）

長期的な展望に基づいてまちづくりの将来目標を示すとともに、各分野における計画や事業の指針を明らかにするもので、市政運営の最も基本となる計画です。

- 基本理念：暮らしやすくて 幸せを実感できるまち
- 重要政策：若い世代が住み、生み、育てたくなるまち

（2）あわら市観光振興戦略（2019（平成31）年3月策定）

北陸新幹線県内延伸を見据え、魅力ある観光地域づくりと地域の活性化に向けた観光施策を効果的に進める観光戦略です。

- コンセプト：和心あふれる 国際的な感幸地
～ 温泉・食・人で心と体が笑顔になる観光地の創造 ～

（3）芦原温泉駅周辺まちづくりプラン（2018（平成30）年7月策定）

2023（令和5）年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、駅周辺の具体的な将来像やまちづくりの仕組などを示したプランです。

- まちづくりのテーマ：和心あふれる賑わい空間

（4）あわら市まち・むらときめきプラン（2019（平成31）年3月策定）

人口減少や少子高齢化が急速に進む中、活力ある豊かで魅力にあふれた集落づくりの主体的な取り組みなどを支援するプランです。

- 目的：「誰もがときめく集落づくり」の推進

4 吉崎エリア及び周辺の概要と現状、課題

(1) 吉崎エリアの歴史

計画地である吉崎エリアは、国内でも特色ある歴史のある地で、浄土真宗中興の祖・蓮如が、1471年から4年間で一大宗教都市をつくりあげた地でもあり、現在は「吉崎御坊跡」としてその名残をとどめています。このエリアは「蓮如の里」と呼ばれ、かつては全国から多くの参拝者が訪れる地でもありました。毎年4月には、「蓮如忌」として京都東本願寺から蓮如上人の画像「御影」を迎え入れ、盛大な法要が行われます。この地には、歴史宗教文化が息づいており、国指定の史跡にも認定されています。

(2) 吉崎エリア及び周辺の現状

① 吉崎エリア

吉崎エリアは、吉崎区と浜坂区からなり、令和2年4月におけるエリア内の人口は352人、世帯数は146世帯です。10年前に比べ、人口で68人、世帯数で36世帯減少しており、また、高齢化率は40%を超えています。

また、かつては「吉崎御坊跡」として、蓮如忌を中心に、県内外から多くの参拝客などがこの地を訪れ、福井県を代表する観光地として栄えていましたが、今では往時の賑わいはなく、市内でも人口減少・小子高齢化が急激に進んでいるエリアのひとつとなっています。

市内には4つのゴルフ場が点在しており、浜坂地区にはそのうちのひとつ、伝統ある「芦原ゴルフクラブ」があります。

② 北潟エリア

旧北潟村の人口は1936(昭和11)年から2017(平成29)年の間に2,493人から302人減り、小学校児童数は630人から82人と1.3割まで減少しています。(「あわら市北潟村民誌」北潟歴史探訪の会 2017(平成29)年)

北潟湖周辺地域では、かつては農業と漁業が盛んでした。「あわら市北潟村民誌」によると、1936(昭和11)年頃の旧北潟村地区では専業農家が291戸、半農半漁は120戸ありました。しかし、現在では、専業農家は約40戸と減少し、漁業従事者も減少しています。現在、農業においては湖周辺の水田では稲作が行なわれるほか、ソバ、ムギ、タマネギなどが栽培されています。

北潟湖および周辺地域については、県において2003(平成15)年に「福井県重要里地里山」の30カ所に、国においては2015(平成27)年

に「生物多様性保全上重要な里地里山」の 500 カ所に認定されています。

そして、里地里山は、癒しの場として、また自然観察、農業、林業、漁業体験といったエコツーリズム、グリーンツーリズムなどの体験型の観光資源として、いろいろな価値も高まっています。

2018(平成 30)年 11 月に設立された「北潟湖自然再生協議会」では、豊かな北潟湖および周辺地域の自然環境について考え、具体的な保全と観光資源としての活用を進めています。

また、「北潟湖畔公園・サイクリングパーク」は、全長 170 メートルの自転車歩行者専用の真っ赤な斜張橋「アイリスブリッジ」が目印です。アイリスブリッジの奥にあるサイクリングターミナルでは、普通自転車、ユニークなおもしろ自転車、バッテリーカーのほか、湖上を楽しむ足こぎや手こぎのボートを貸し出しています。湖の周りを自転車でサイクリングしたり、湖でのボート遊びや釣りなどの野外レクリエーションを楽しむことができます。

さらには、富津区では全国ブランドとなったサツマイモ「とみつ金時」の露地栽培が盛んです。また、北潟湖の内水面漁業においては、フナ漁とウナギ漁が中心に行なわれています。

③ 細呂木エリア

細呂木地区は、あわら市の中央部に位置し、19 集落からなります。住民基本台帳の令和 2 年度末現在の人口は 3,030 人となっており、市全体の 10.9%にあたります。

世帯数は 1,071 世帯で、高齢化率は 35.35%と市平均 33.26%を 2.09 ポイント上回っています。多世代世帯数は 673 世帯、高齢者世帯数は 239 世帯、1 人暮らし世帯数は 103 世帯となっており、高齢者世帯が 4 分の 1 を占めています。

自然資源は、なだらかな山林や田畑、果樹園を有す広大な平野を有しています。歴史資源は、旧北陸道が縦貫し、千束一里塚、細呂木一里塚、細呂木関所跡において、金津街中や吉崎を結ぶ道中で昔ながらの街道の面影を残しています。また、川口城址、たたら製鉄跡、神宮寺城跡、多賀谷左近三経公墓所、嫁威しの谷など、古代からの先人の足跡に加え、摂取山昭巖寺や大連院専教寺などの寺社仏閣が多く点在しています。産業遺産として、宮谷の石切り場、滝の瓦、蓮ヶ浦の干拓があります。文化・スポーツ施設等は、金津創作の森やトリムパークかなづ、あわらフルーツラインがあります。

JR 細呂木駅は、JR 芦原温泉駅から北へ 1 駅目にあり、北陸新幹線

が開通した場合、新幹線発着駅からアクセスしやすい立地条件にあります。

④ 坂井北部丘陵地

福井県最北部に位置するあわら市と坂井市にまたがる台地で、昭和 61 年度までの 17 年の歳月をかけて、国営のパイロット事業により、約 1000 ヘクタールの畑地が整備されました。

なだらかな丘陵地には、フルーツラインと呼ばれる広域農道を 中心に、果樹園が広がり、メロン、スイカ、梨、柿、ブドウ、いちじくなどの農園があるほか、乗馬クラブ、農産物直売所などの施設があります。

(3) 吉崎エリア及び周辺の課題

① 吉崎エリア

吉崎エリアは、あわら市の中でも少子高齢化、人口減少の進行が早く、空き家も多い地域です。今後、集落の維持も厳しくなることが予想されています。

また、観光産業の中心である吉崎御坊の観光客数も減少を続けています。観光客数は年間 5 万人程度であり、全盛期の 10 分の 1 に満たない状況となっています。

吉崎エリアへの観光客が減少している理由としては、観光業に従事する人材（地域住民）が減少したこと、最盛期であった昭和 40-50 年代当時の観光スタイルから脱却が図れず、時代に合わせた観光サービスの提供ができなかったこと、そして、吉崎に宗教的な動機で訪れる信者のボリュームゾーンが高齢化したこと等が考えられます。観光客の減少に伴い観光事業者も減少し、その結果、魅力が小さくなりさらに観光客が減る、という負のスパイラルとなり、そこから脱出するためには、このエリアが持つポテンシャルや時代に合わせた形で再定義、再デザインする必要があります。

② 北潟エリア

北潟湖周辺の自然再生に役立てることを目的に行った湖畔に住む住民を対象としたアンケート調査では、ほとんどの住民が北潟湖を大切に思い、良くしたいと感じていることが分かっています。

一方で、北潟湖で獲れた魚介類の食経験は若い世代ほど少なくなっていることから、地域住民の北潟湖との関わりが少なくなっていることも分かりました。アンケートからは、10 歳代（小中学生）からの回

答もあり、その年上の世代よりも湖を良くしたい気持ちが芽生えていることが伺え、これは、地元の環境保全団体による環境教育（学習）の効果の現れと考えられます。

北潟湖自然再生協議会では、北潟湖周辺生物多様性保全推進事業として、大学教授等の専門家の協力の下、北潟湖周辺の鳥類、動植物、魚介類の調査に加え、ボランティア団体の協力を得て、貴重生物生息区域の除草作業等の環境整備、ウシガエル、アカミミガメなどの外来種の除去、地元小学生を対象とした自然学習、そして「北潟湖フォーラム」を開催し、北潟湖および周辺地域の自然の価値と保全に対する意識の醸成を図っています。

北潟湖畔の 2019（令和元）年の総入込客数は 76,910 人で、2014（平成 26）年の 128,400 人と比べ、約 40%減少しています。

③ 細呂木エリア

細呂木地区は、将来推計値において、令和 10 年には高齢化率 40.4% となり、令和 2 年と比較すると、人口は約 15%減少、世帯数は約 10%の減少が予測されています。全国・県内・市内に先立ち、超少子高齢化社会を迎えることとなります。

細呂木地区は、自然・歴史資源の発掘や活用に取り組み、景観形成や観光振興で成果を得ていますが、有効な情報発信や県外からの来訪には至っていません。

今後は、受付窓口の一元化やターゲット層やニーズを踏まえた体験プログラムの企画・開発及び、利用者と直接つながるマッチング環境が必要です。

④ 坂井北部丘陵地

近年の担い手の高齢化、後継者不足などから、丘陵地においても耕作放棄地が見られるようになってきました。平成 23 年 4 月に設立された「丘陵地農業支援センター」では、地域担い手の確保と育成、農家支援、丘陵地の農業振興施策が行われています。また、県が運営する「ふくい園芸カレッジ」では、園芸分野での就農を支援しています。

5 道の駅整備に至る経緯と目的、意義

あわら市は、福井県の北の玄関口として石川県加賀市と接し、北陸自動車道や国道8号、国道305号などの幹線道路を利用して多くの車両が県境を往来しています。

このうち国道305号は、越前海岸からあわら温泉、北潟湖を経て金沢市へ至る一般国道であり、沿線には東尋坊などの景勝地も多く、観光道路としての側面も有しています。

この国道305号が通るあわら市吉崎は、15世紀に浄土真宗中興の祖といわれる蓮如が御坊を開山し、布教の拠点とした地で、毎年4月の蓮如忌には県内外から多くの参拝客が訪れています。

また、かつては全国からの多くの参拝客がこの地を訪れ、福井県を代表する観光地として栄えていましたが、今では往時の賑わいはなく、市内でも人口減少・少子高齢化が急激に進んでいるエリアのひとつとなっています。

このため、この吉崎に、あわら市北部の地域資源やポテンシャルを最大限活かし、地域活性化の拠点として、休憩・情報交換、地域連携の機能をもった、地域とともに作る個性あるにぎわいの場として、あわら市初となる道の駅を整備することとします。

現在、あわら市では、地域の活性化にとって100年に1度のビッグチャンスといわれる2023（令和5）年3月の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、駅周辺整備を着実に進めるとともに、地域資源の磨き上げや観光拠点の整備、魅力発信の強化に向けた取り組みなども併せて推進しているところです。

「北陸新幹線芦原温泉駅周辺」「あわら温泉街」「吉崎エリア」の3地点を、点から線へ、線から面へ、トライアングルに結ぶことで、市内全域の回遊性を高め、魅力的なさまざまな地域資源を活かして、周遊滞在型の観光を推進します。

また、同年9月には、「芦原ゴルフクラブ」において2回目の開催となる、「日本女子オープンゴルフ選手権」の開催が予定されており、県内外から約3万人のギャラリーが訪れることとなります。

こうしたことから、2023（令和5）年のこの機をしっかりと捉え、あわら市北部エリア、そして、あわら市全域に元気と活力を取り戻し、増進させ、地域住民の生活の向上や地域の活性化を図ります。

みどころたくさん!
あわら市
MAP



3 道の駅の目指すべき方向性とコンセプト、名称

1 道の駅の目指すべき方向性

道の駅は、交通利用者の休憩施設であると同時に、市の地域・観光振興、並びに情報発信の拠点であることが求められています。つまり、道の駅のみで完結するのではなく、道の駅を地域の拠点として、来訪者と地域をつなぐ役割を果たす拠点となるべき施設です。従来の「休憩」が利用目的となる道の駅ではなく、道の駅自体や地域資源を楽しむなど、「目的地」となる道の駅を目指します。

このため、さまざまなポテンシャルを秘めた吉崎を含むあわら市北部地域の強みや特徴を最大限に生かし、地域の顔として、個性的で魅力的な道の駅とします。

- 単なる通過点ではなく、機能拡充により来訪者が楽しめる道の駅を目指します。
- 地域住民が集い憩う場所、住民や来訪者が利用する物販所等を整備することで、住民生活の利便性や地域の賑わいの向上を図ります。
- あわら市北部エリアへの人の流れを作るなど、道の駅を拠点とした地域の活性化を目指します。
- 観光や市の地域の魅力に関する情報の発信拠点として、来訪者と地域を結ぶ道の駅を目指します。
- 福井県坂井市や石川県加賀市などと連携し、地場産業や広域的な観光の振興につなげます。

2 道の駅のコンセプト

(1) 基本コンセプト

さんぽう
「三方よし、感幸ステーション」
住む人も来る人も地域全体も“よし”となる幸せの結節点

※「三方よし」とは、近江商人の経営哲学「商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売といえる」という考え方。近世日本経済を支え、現代のトップ企業を生み出した近

江商人と大阪商人のルーツは、室町期の本願寺第八代・蓮如上人によって創建された我が国初の寺内町・吉崎御坊にあったといわれています。

(2) キーワード

- **結 ぶ**…福井の北の玄関口、石川の南の玄関口として、人・モノ・コト・情報が集まる結節点
- **集 う**…地域住民や来訪者が集い、憩い、遊び、楽しむ賑わい拠点
- **育 む**…丘陵地の農産物や地元特産品の販売、郷土料理等を提供する産業振興の拠点
- **つなぐ**…観光地をつなぎ、誘客拡大を図る周遊観光の拠点
- **学 ぶ**…吉崎エリアをはじめ、あわら市北部エリアの歴史・文化や自然・環境を楽しく学べる拠点
- **安らぎ**…アウトドアスポーツ（ウォーキング・ジョギング、サイクリング）等で心身をリフレッシュし、健康増進を図る拠点

3 名称

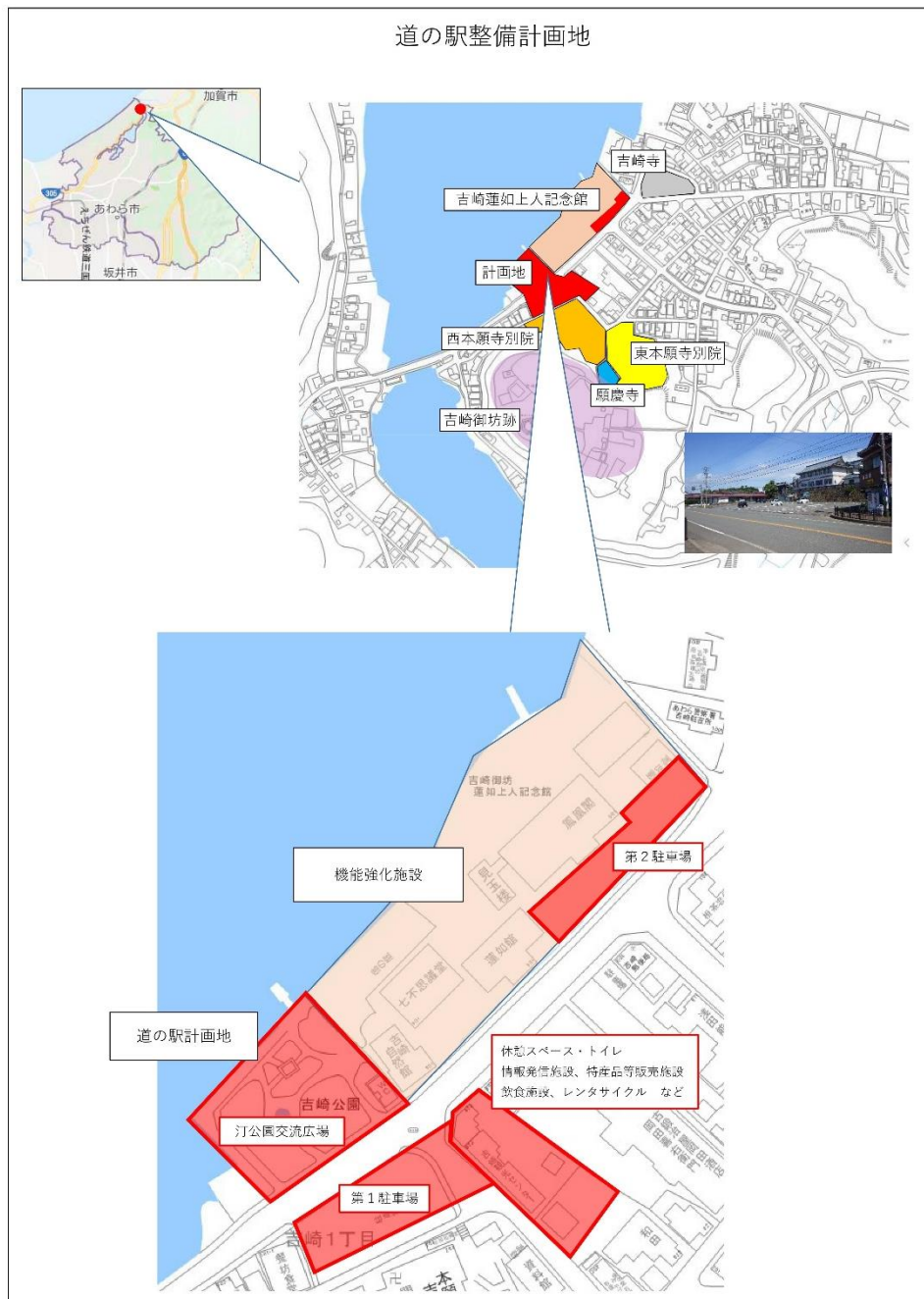
道の駅の名称については、整備予定地の歴史・文化、知名度、さらには人々の親近感などを勘案し、次のとおりとします。

道の駅「蓮如の里あわら」

4 道の駅整備の計画地及び周辺関連施設等

1 道の駅整備の計画地

吉崎御坊の県営駐車場や都市公園である「吉崎汀公園」、民間施設の「吉崎観光センター」などの既存施設のエリアと、隣接する「吉崎御坊蓮如上人記念館」のエリアを機能強化施設とし、両エリアを道の駅として機能的一体的に整備します。



2 周辺関連施設と道の駅整備エリアの特徴

(1) 周辺関連施設

吉崎エリアは福井県の北の玄関口であるとともに、隣接する石川県の南の玄関口でもあることから、県境を跨いだ多くの交流人口が見込まれるポテンシャルを秘めています。

吉崎御坊跡（吉崎御山）に隣接し、御山に向かう西側に、浄土真宗本願寺派の別院（吉崎西別院）が、東側に真宗大谷派の別院（吉崎東別院）があります。また、地元の寺院である願慶寺（真宗大谷派）や吉崎寺（浄土真宗本願寺派）、一般財団法人本願寺文化興隆財団が運営する吉崎御坊蓮如上人記念館、石川県との県境を跨ぐ「越前加賀県境の館」などの施設があります。

さらには、越前加賀国定公園内の日本海に面する海岸や、北潟湖等の豊かな自然景観を有する地域であり、特に、海に突き出た「弁天島」から見る日本海の眺めは素晴らしいものがあります。これらの自然や環境等を守りながら観光する「エコツーリズム」も盛んです。

また、同国定公園内には、1983年に日本女子オープン選手権の舞台にもなった、1960（昭和35）年開場の名門「芦原ゴルフクラブ」があります。北潟湖には、コイ、フナ、ウナギなどが生息し、淡水釣りのメッカとして有名であり、毎年12月から翌年3月までは、寒ブナの「柴漬漁」が行われ、冬の風物詩となっています。平成30年には、カヌースプリント競技の好適地として、福井国体が開催されました。

「道の駅」の開業は、観光やビジネスなどの交流人口の増加や地域経済の活性化につながるが見込まれています。吉崎エリアが持つ「自然・景観」「歴史・文化」「食・健康」などの地域資源に光を当て、磨き上げを行い、新たな地域振興の拠点となる道の駅整備を進めます。

① 吉崎御坊跡及び寺院

- 吉崎は、浄土真宗中興の祖・蓮如が北陸での布教の中心拠点に選んだ場所で、現在でも付近一帯は「蓮如の里」と呼称されています。
- 浄土真宗本願寺派の別院（吉崎西別院）、真宗大谷派の別院（吉崎東別院）、願慶寺、吉崎寺があります。
- 東別院、願慶寺、吉崎寺には、吉崎に伝わる伝説「嫁威（よめおどし）」

肉付きの面」が伝えられているなど、各寺院の特色を楽しむことができます。

- 蓮如忌は、毎年4月23日から5月2日にかけて、京都東本願寺から蓮如上人の「御影（ごえい）」を迎えて、盛大な法要が行なわれます。御忌法要が行われる10日間は、市内外から多くの参拝者が訪れます。

② 吉崎御坊蓮如上人記念館（一般財団法人本願寺文化興隆財団）

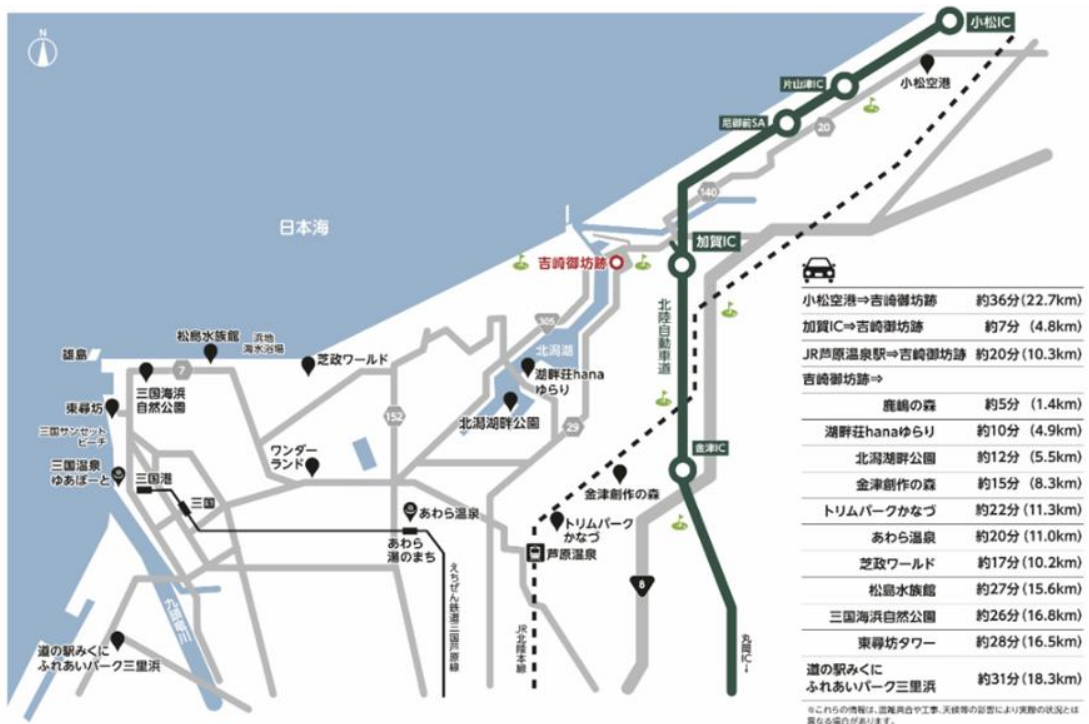
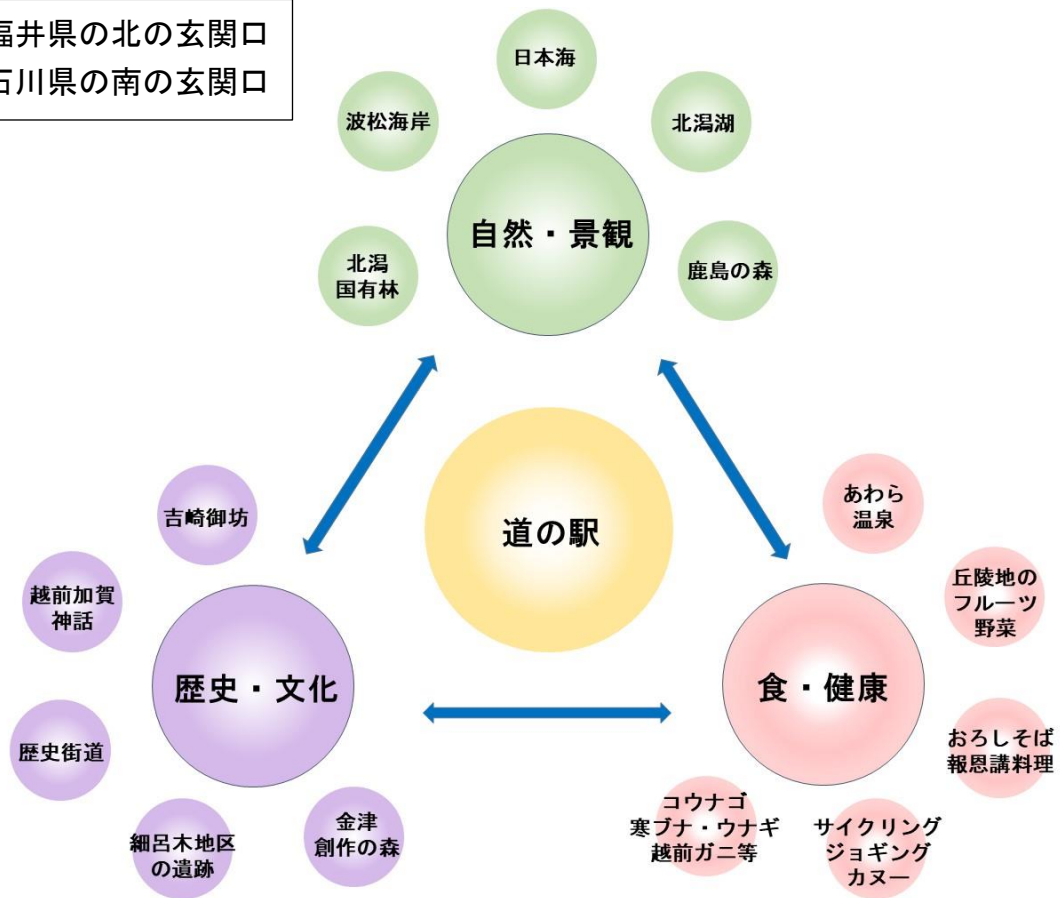
- 平成10年に一般財団法人本願寺文化興隆財団によって設立されました。蓮如上人の御名号や御文（御文章）などの貴重な文化財と史料を展示する「蓮如館」、総檜寝殿造の「鳳凰閣」、「七不思議堂（国登録有形文化財）」、「信の庭」、桃山様式の高廊下風庭見台「見玉楼」等からなり、蓮如上人の生涯と教え、吉崎の歴史や文化を深く学ぶことができます。
- 鳳凰閣の喫茶スペースでは、毎年「蓮如さんかるた大会」や「伝統芸能新世代コンクール」のほか、シンポジウム等が開催されています。
- 自然館では、北潟湖周辺の地学、自然や動植物を紹介しています。

③ 越前加賀県境の館

- あわら市と石川県加賀市の県境を跨いで建っている館で、周辺地域の歴史に関する展示を楽しむことができます。
- 館の西側には、国指定天然記念物である「鹿島の森」と雄大な「北潟湖」が広がっていて、館の正面の窓からは、これらの景色が1枚の絵のように美しく見ることができます。

(2) 道の駅整備エリアの特徴

福井県の北の玄関口
石川県の南の玄関口



5 道の駅導入機能及び施設等

1 休憩機能

(1) 駐車場

- 国道 305 号や周辺道路の交通量、イベント時の来場者数を勘案し、誰もが停めやすい、ゆとりある駐車スペースを 2 カ所整備します。
- 安全確保のため、小型車と大型車が交錯しないように、可能な限り駐車スペースを分離するほか、利用者の安全を確保するため、歩行者の通行スペースを分離します。
- 「ハートフル対応型」の駐車マスについては、施設に近い位置に整備し、障害者等が主要な施設にアクセスできるよう計画します。また、悪天候でも移動が不便にならないよう雨除け等を完備します。
- シャトルバスやレンタサイクルで市内各所を観光できるよう、長時間利用可能な駐車場を整備します。

第 1 駐車場

小型駐車場 25 台、大型駐車場 5 台
ハートフル駐車場 2 台、二輪駐車場 10 台
バス停留所 1 カ所

第 2 駐車場（鳳凰閣前駐車場）

小型駐車場 30 台、大型駐車場 5 台

(2) トイレ

- 道路利用者等が 24 時間利用できるトイレを整備します。
- オストメイト、授乳スペース、幼児・身体障害者用を備えた多機能トイレを整備します。
- 明るく清潔で、夜間でも利用者が不安にならない施設を整備します。
- 車いす利用者や乳幼児を持つ子育て家族等、誰もが安心して利用できるよう配慮します。
- 節水、省電力による環境配慮型施設とします。

(3) 休憩スペース

- 道路利用者が、休憩しながら道路情報等を確認することができる休

憩所を整備します。

(4) 関連施設

- 駐輪場やサイクルラックを設置します。
- 更衣室やシャワールームなど、ドライバーだけでなく、サイクリングロード等の利用者がいつでも休憩できる環境を整備します。

2 情報提供機能

(1) 情報発信施設

- 道路利用者が必要とする道路や交通情報、天気情報、冬の雪道情報、災害情報、市内の駐車場情報等の情報をリアルタイムに提供する施設を整備します。
- 道路情報提供施設として、掲示板、道路情報モニター、Wi-Fi機能等を整備します。

3 地域振興機能

(1) 汀公園交流広場

- 吉崎汀公園を、風光明媚な湖畔の風景で疲れを癒したり、地域住民が交流イベントなどを行うことができる広場として活用します。

(2) 特産品等販売施設

坂井市や加賀市と連携し「吉崎楽市楽座」として整備します。

① 農産物直売所

- 地産地消活動の中心的役割を担う道の駅において、坂井北部丘陵地等で収穫された新鮮な農産物の良さや安全性を発信するとともに、生産振興を図るため、ファーマーズマーケットを整備します。
- スイカやメロン、梨、柿、サツマイモなど、四季折々の果物や野菜を販売します。
- 生産者の顔が見える売り場づくりにより、新鮮な農産物の良さや安全性を消費者に届けます。
- 商品の購入やイベントを通じて、生産者と消費者の交流が図れるよう運営の工夫を行い、やりがいや生きがいを持ってさまざまな活動が展開される地域づくりに寄与します。
- 農産物の生産者の顔が見えるとともに、生産過程などをPRしながら、農業体験等の案内を行います。

② 土産物販売所

- 市内外の選りすぐった特産品（菓子類・酒類・伝統工芸品等）等を販売する施設を整備します。
- 金津創作の森と連携し、入居作家等の作品を展示販売します。
- 市内の各地域のPRが可能なスペースを設けます。
- 市内の各地域のPRをすることにより、観光客を市内へ誘導することができるよう工夫を凝らします。
- 営業時間や在庫の確保等、利用者のニーズに即した運営体制を検討します。

（２）飲食施設

- 手軽に利用できるフードコートを整備します。
- コーヒー等の飲み物のほか、地元の食材等を利用した特徴のあるスイーツを提供します。
- おろしそばやうどん、ソースカツ丼などのご当地メニューを提供します。
- 地元で獲れる小女子などの水産品等を用いたメニューや報恩講料理からヒントを得たアレンジ料理などを開発します。

4 周遊観光促進機能

（１）観光案内施設

① 観光情報発信コーナー

- 観光案内やイベント情報といった各種パンフレット等を提供し、市内をはじめ嶺北各地や加賀市等の情報を発信する観光案内コーナーを整備します。
- 市内外の観光地を映像で紹介するデジタルサイネージを整備します。

② まちあるきツアー案内コーナー

- 一般社団法人蓮如の里吉崎が、御山や寺院巡り、北潟湖水上散策、弁天島を中心とした自然散策等を体験メニュー化したまちあるきイベントを開催します。
- 吉崎ガイドクラブが、蓮如の里の歴史・文化、食などの魅力を紹介します。

(2) シャトルバス等停留所

- 市内への回遊性を促進するため、バスの停留所を整備します。
- あわら北部周遊バス「あわらぐるっとバス」と加賀周遊バス「キャン・バス」の停留所を同じ場所とし、利便性の向上と周辺の観光地間の周遊性を高めます。

(3) レンタサイクル

- 道の駅周辺等の観光スポットを楽しんでもらうため、レンタル自転車を配置します。(レンタサイクル台数：10台程度)
- レンタサイクルの利用促進を図るため、サイクリングロードや観光回遊ルートなどを記載した観光マップを作成します。

5 機能強化施設

(1) 吉崎御坊蓮如上人記念館（一般財団法人本願寺文化興隆財団）

① 鳳凰閣

- メロン、とみつ金時、越のルビーなど特産フルーツや野菜、北潟湖や日本海の海産物などを用い、「蓮如レガシー」のストーリーを付加した飲食物、土産物を首都圏著名料理人（店舗）プロデュースで開発します。これを市内外に広く発信し、女性やカップル、県外からの来訪者に楽しんでもらいます。

② 蓮如館

- 蓮如上人の資料や、漫画会の巨匠・永井豪氏、里中満智子氏等が描いた「蓮如さんかるた」の絵札の原画を展示します。
- 市民を対象とした「蓮如さんかるた大会」等のイベントを開催します。

③ 信の庭

- 北潟湖や鹿島の森、日本海を望みながら美しい庭園を散策することができます。
- 吉崎汀公園と結ぶことで、湖岸散策路としての回遊性を高めます。

④ 七不思議堂

- 明治14年に建てられた貴重な古民家として、平成24年に国の有形文化財（建造物）に登録されました。
- 建物内には、蓮如上人にまつわる吉崎の民話「吉崎七不思議」が展

示されています。

⑤ 自然館

- 北潟湖周辺の地学、自然や動植物を紹介し、児童への環境教育を推進します。

6

近隣施設等

1 あわら市

(1) あわら温泉

- 1883年(明治16年)に農夫が水田の灌漑用の井戸を掘ったところ偶然にも生暖かい塩味の温泉が湧き出したことが始まりです。現在は74本の泉源があり旅館ごとに温泉の泉質や効能が異なります。
- 温泉街の周辺は田園に囲まれ、のんびりとした景色が特徴で多くの文人墨客に愛されてきた温泉街です。
- 現在、約25の宿泊施設があり、年間約80万人の宿泊客が訪れる、福井県最大の宿泊地となっています。
- 旅館ごとに趣向を凝らした豪華な庭園や、日本海の新鮮な海の幸、人の幸あふれるおもてなしにより、「関西の奥座敷」と呼ばれるなど、多くのお客様に愛されています。

(2) 芦原ゴルフクラブほか市内に点在するゴルフ場

- あわら市内には4つのゴルフ場が点在しています。
- 名門「芦原ゴルフクラブ」は、打ち寄せる日本海の波、静かに光る北潟湖、遠望する白山連峰など、美しい自然にあふれたゴルフクラブです。

(3) 北潟湖畔公園・サイクリングロード

- 北潟湖は、福井県の北端部に位置する周囲14kmの汽水湖で環境省の重要湿地500にも選定されており、多くの野鳥観察ができるほか、天然うなぎや寒鮎が取れます。
- 北潟湖のシンボルとなっている真っ赤なつり橋“アイリスブリッジ”や、北潟湖畔公園、北潟湖畔花菖蒲園などが整備されています。
- 北潟湖畔のアイリスブリッジを渡る一週3.7kmのサイクリングロードをレンタサイクルで走ることができるほか、湖上では足こぎボートに乗ることができるなど、家族で楽しめるアクティビティが充実しています。

(4) 波松海岸

- 波清流木きらめきフェスタなどのイベントでは、伝承料理である「くじら汁」の試食販売のほか、流木や貝殻、シーグラスを使った流木ア

ートなどのワークショップ体験などが楽しめます。

- 波松海岸は、キス釣りや観光地引網が楽しめるほか、休校となった波松小学校舎には、「なみまちC A F E」があり、地元のメロンやナシなどを使ったスイーツや食事が楽しめます

(5) 細呂木地区の遺跡群

- 北陸最古の古代たたら製鉄遺跡をはじめ、樹齢900年以上といわれる衣かけの大杉、最古の越前狛犬、近世の川口城址や神宮寺城址などの遺跡が多く点在しています。
- 細呂木関所跡が残されている旧北陸道の要衝で、のこぎり坂や旧吉崎道の切通しなど貴重な古道として多くのファンが訪れています。

(6) 金津創作の森

- 森に囲まれたアートスペース『金津創作の森』。広大な森の中にはものづくりの作家が住んでおり、人と自然、アートが交差する施設です。
- 『金津創作の森』の中心的な建物「金津創作の森美術館アートコア」では様々な企画展が開催されます。『金津創作の森』の敷地内には、「創作工房」や「ガラス工房」も整備されており、手軽に陶芸やガラス細工などが楽しめます

2 坂井市

(1) 東尋坊

- 波の浸食によって荒々しくカットされた断崖絶壁が続く奇勝地。
- 「輝石安山岩の柱状節理」という、地質学的にも珍しい奇岩は世界にも東尋坊を含め3カ所しかないといわれ、国の天然記念物に指定されています。
- 周辺には、新鮮な海産物や野菜を使った食事処や、ご当地モノが満載の土産処もあります。

(2) 越前松島水族館

- 1959年開館で、景勝地東尋坊にほど近く、施設全体が越前加賀海岸国立公園の中にあります。
- 「みて、ふれて、楽しく学べる」がテーマの体験・体感型水族館です。大ジャンプを見せてくれるイルカショーや、ペンギンの可愛らしい散歩が人気です。

(3) 芝政ワールド

- 日本海と芝生の遊ぶテーマパークで、広大な敷地内には、テーマごとに6つの王国があり、エリアごとにさまざまなアイテムが用意されています。
- 夏季営業のプールは、世界最長・最大落差の浮き輪ウォータースライダーが人気です。

3 石川県加賀市

(1) 加賀フルーツランド

- いちごやさくらんぼ、ブルーベリー、ぶどう、りんご等、フルーツ狩を体験することができます。自然のまま、市場に並ぶ前のフルーツの姿を「見て・触って・収穫する」四季を感じながら、さまざまなフルーツとふれ合うことができます。
- 施設内では、バーベキューやパークゴルフなども楽しめます。

(2) 月うさぎの里

- 園内に沢山のうさぎが飼育されており、無料で触れ合うことができます。
- うさぎと遊ぶ、うさぎを見る、2000点以上のうさぎグッズや、石川県の特産品も買うことができます。

4 自然を感じて遊べるアクティビティ

(1) サイクリング・ジョギングロードの整備

- 球技のような激しいスポーツと比べ体への負担の少ないサイクリングやジョギング、ウォーキングにより、健康増進を推進します。
- 北潟湖周遊サイクリングロード「北潟湖ハミングロード」と石川県加賀市の「加賀海岸サイクリングロード」の接続を進めます。

(2) ウォータースポーツやフィッシング

- あわら市では、カヌーポロ競技が盛んです。毎年開催される「あわらカップカヌーポロ大会」は、現在では、日本で最大規模のカヌーポロ大会となっています。また、初心者やカヌーポロは苦手という方たちには、北潟湖を利用したカヌーツーリングなどが行われています。

- 波松海岸は、磯の香に包まれ、松の緑と白い砂浜がどこまでも続く美しい海岸で、キス釣りのメッカとして有名です。また、波のある日はサーフィンを楽しむたくさんの人でにぎわいます。

(3) エコクリーンツーリズム

- 海岸線にある北潟国有林などには、希少な植物が生息していることから、地元の自然保護団体などが開催する自然ウォッチングやウォーキングイベントなどを通して、地域の貴重な自然や環境の保全について楽しく学ぶことができます。

5 坂井北部丘陵地の四季折々のフルーツ等

- 坂井北部丘陵地では、四季を通じてさまざまなフルーツなどの収穫体験や購入を楽しむことができます。
- メロンは、種類が豊富で、プリンス、マルセイユ、アンデス、アムス、ペルル、アールスなど10種類以上あります。赤肉、青肉と形も味も様々で、食べ比べも楽しめます。
- 越前柿は、刀根早生や平核無という種類で種が無く四角いのが特徴です。渋抜きが行われた越前柿は種もなく甘くて大変好評です。
- 梨は、波松地区の特産で、幸水、豊水、二十世紀、新興など種類も豊富で県内外に多くのファンを有しています。
- とみつ金時は、甘みが強く、しっとりホクホクした味わいが特徴で、全国的に知名度が高まっています。

収穫体験	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
いちご		■	■	■	■	■						
ブルーベリー							■	■	■			
越のルビー						■	■	■	■	■		
ぶどう							■	■	■			
なし								■	■	■		
いちじく								■	■	■		
くり									■	■		
買う	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
メロン						■	■	■	■	■		
すいか						■	■	■				
越前柿										■	■	
とみつ金時										■	■	■

7 ゾーニング計画

1 整備予定地の現状

計画地は、以下（航空写真）のとおり、国道 305 号の両側に位置します。北側には越前加賀県境の館、南側は吉崎御山、北西部には北潟湖が広がっています。

設置位置周辺の現況把握

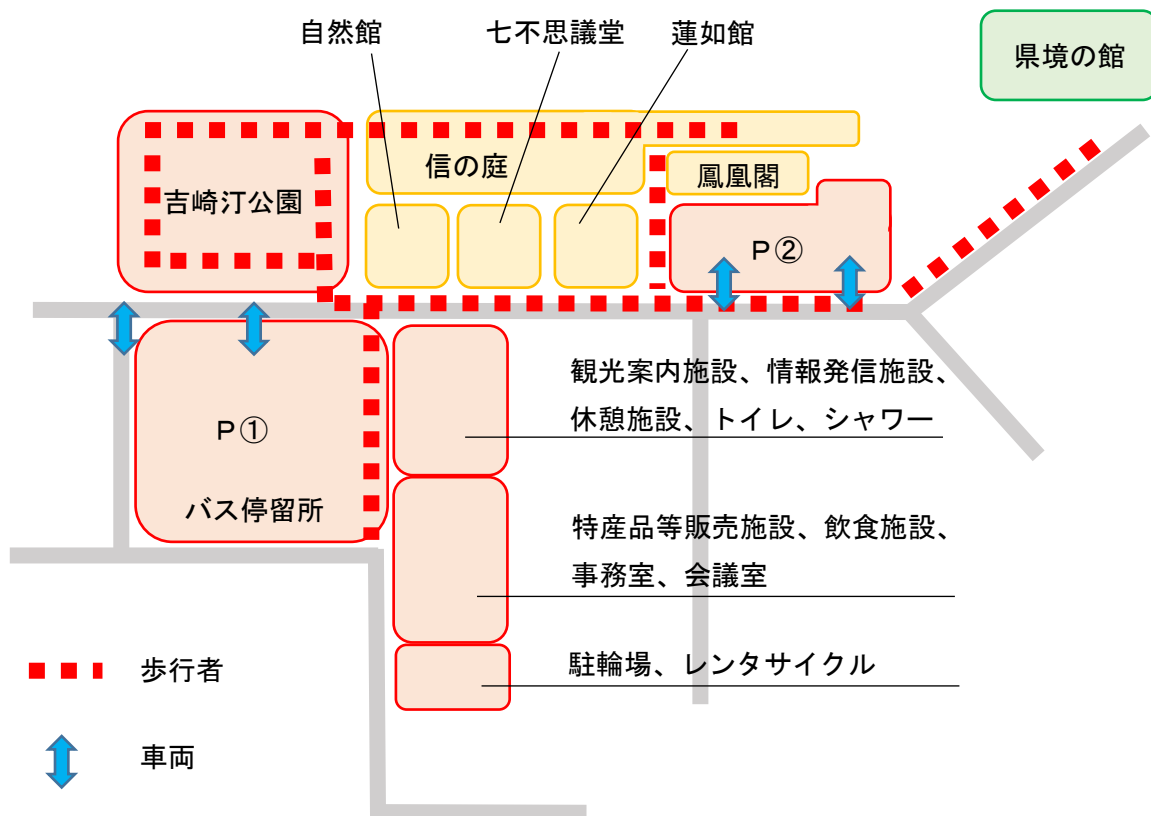


2 ゾーニング計画

道の駅及び吉崎汀公園、蓮如上人記念館（機能強化施設）への車両及び歩行者の動線を考慮し、ゾーニングを計画します。

動線の考え方

対象		動線の考え方
車両動線	施設外	・国道 305 号から直接アクセスする。
	施設内	・小型車、大型車が交差しないような車両動線を計画する
歩行者動線		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場内から各施設へ安全に出入りできるように歩行空間を明確にする ・周辺地域住民等、歩行者でも利用しやすいように、国道 305 号から歩いてアクセスできるようにする。 ・地域振興施設予定地西側の既存市道は、計画地西側に振り替え、道の駅利用者の安全を確保する。



8 施設配置計画

施設配置の基本的な考え方及びゾーニング計画、動線計画を踏まえた施設配置計画図を以下に示します。

※ あわら市道の駅基本計画策定委員会で詳細を検討

道の駅の空間及び意匠については、この地域の持つ歴史や文化を感じながら、北潟湖や鹿島の森などの周辺の自然と環境に調和する施設整備を基本とします。

また、地域産の素材を使用し、来る人を癒し、くつろぐことができ、また周辺観光の拠点となるような空間・意匠計画とします。

1 自然環境を取り込んだ空間・意匠

- 施設からの眺望に周辺の自然景観を取り込み、北潟湖の持つ魅力を最大限に活かしながら、自然の中でくつろげる計画とします。
- 施設は地域産の素材を有効に活用することを基本とし、経済性や耐久性、メンテナンス性に優れた計画とします。
- 再生可能エネルギーの積極的活用と有効活用に努めます。

2 移動しやすく楽しめる空間・意匠

- 利用しやすい施設レイアウトとし、サイクリングロード利用者を含むすべての道の駅利用者が、快適に滞留や回遊ができる計画とします。
- 誰でも安全で安心して楽しく利用できるユニバーサルデザインとします。
- 周辺の眺望を楽しめる空間を確保します。
- 道の駅利用者の導線に配慮した配置計画とします。

3 地域住民が集える場としての空間・意匠

- 地域住民が気軽に立ち寄り、利用できる計画とします。

4 可変性のある空間計画

- 建物内部は移動可能な間仕切り等で計画し、可変性を有する空間とします。
- 防災拠点としても機能できるよう、平常時と災害時のいずれにも対応できる空間とします。

5 冬季環境に配慮した空間計画

- 冬季の積雪等に配慮した施設計画とします。
- 屋根からの落雪等による第三者被害の防止や堆雪に配慮した計画とします。

10 管理運営の基本方針

1 管理運営の基本方針

道の駅では、道路利用者の利便性向上と、地域の活性化につながる管理運営に取り組みます。利用者の満足度を得るために、サービスの質の向上や、美観や清潔さを維持します。さらに、「ここにしかない」道の駅とするための地域の独自性や、地域ならではの商品や空間づくりにも取り組みます。

こうした背景を踏まえ、誰もが利用しやすい場にするるとともに、地域内外の交流・連携を図り、「おもてなし」を重視した管理運営を推進します。

(1) 誰もが立寄りたくなる「おもてなしの道の駅」とします

- 利用者に「おもてなし」を提供します。
- いつでもだれでも利用できる、くつろげる場を提供します。
- 利用者が憩い、安らぐ空間を提供するため、行き届いた清掃やごみの削減等、清潔で美しい施設として維持します。

(2) 地域を周遊するきっかけの「まちの顔・案内人」となります

- 道の駅や地域との連携により、地域を周遊して楽しんでもらい、まちのリピーターづくりに寄与する道の駅とします。
- 道路利用者に対する交通情報、観光客に対する地域情報等、タイムリーに必要な情報を提供します。
- 地域内や地域間、道の駅間と連携したイベント等を企画します。

(3) 地域の人を使いやすく、やりたいことができる「地域のための道の駅」とします

- 地域の住民や物(特産物)、情報が集まる仕組みづくりを目指します。
- 地域交流スペースやイベントスペース等を利用して、地域住民の活動・活躍の場を提供するとともに、イベント開催等のにぎわいづくりに寄与します。
- 地域や利用者のニーズに合わせて対応します。

(4) 周辺地区だけでなく、市全体の人とまちを元気にする「地域に還元する道の駅」とします

- あわら市全域の地域産業の振興や新規雇用に寄与するため、地産地消を推進し、農林産物や加工品、オリジナルメニューを提供します。

●新たな商品開発等に取り組みます。

2 管理運営方針

公共施設の管理運営手法は、市が直接管理する方法（公設公営）、指定管理者により管理する方法（公設民営）、施設の管理から運営まで民間事業者が行い管理する方法（民設民営）があります。最善の管理運営手法を検討します。

11 整備の基本方針

1 道路管理者とあわら市との役割分担

本事業は、道路管理者とあわら市が共同で整備する「一体型」の道の駅として、整備を進める管理・運営方針を実現できる形態を、今後決定していきます。

導入施設		想定される整備主体		
		道路管理者	あわら市	本願寺文化 興隆財団
休憩機能	駐車場	○	△	
	トイレ	○	△	
情報発信機能	休憩スペース・情報発信 施設	○	△	
地域振興機能	特産物等販売施設		○	
	飲食施設		○	
	観光案内施設		○	
観光周遊促進 機能	シャトルバス等停留所		○	
	レンタサイクル		○	
	更衣室・シャワールーム		○	
機能強化施設	鳳凰閣等			○
	遊歩道		△	○

※ △は、施設規模等の状況により整備することとする。

2 概算事業費

道の駅整備における設計・建設等の概算事業費は、未定です。なお、財源確保については、国や県の支援メニューを積極的に活用します。

3 整備スケジュール（案）

令和5年4月中旬、蓮如忌前のオープンを目指します。

道の駅「蓮如の里あわら（仮称）」整備スケジュール														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
令和2年度	基本構想策定庁内プロジェクトチーム			■										
	基本計画策定委員会							■						
	基本計画策定業務							■						
3年度	重点道の駅協議申請（国土交通省）		■											
	基本設計業務		■											
	実施設計業務							■						
4年度	道の駅認定申請（国土交通省）	■			協議		▲申請						▲認定	
	敷地造成、建築物、駐車場の整備	■												
5年度	4月共用開始予定	▲												